

は三割乃至四割程度の増収を得てゐると考へる。炭坑主側の頑迷は従来と少しも變らぬ、二瀬出張所で産業協力主義の下に組合を組織せんとして解散せしめられ解雇せられた無理解も甚しい、今の儘でやつて行けば三年前より以上の問題が勃發する危険性がある。

資本家的統制經濟に依つて資本主義の行詰りを立直し労働階級にノシかゝつて來るファツシヨに對抗するには労働階級の強力なる團結に依るの外ない、然し日本には獨裁政治は其の國民性上成立しないことを斷言する。労働組合は思想運動でない、流行的思想運動に左右されてはならぬ。日本の産業に國家的立場より協力して、勞資間の圓滿なる解決を圖らんとするものであるが理解ある資本家とは協力しても、無理解なる資本家とは飽くまで闘ふものである。

吾々は健實なる労働組合主義運動に依り、労働組合會議の方針こそ將來日本改造の根本標準をなすものなりと信じ如何なるものにも影響されず、本大會の決議遂行に邁進するものである。

14、閉會の辭

山木戸初太郎

労働者の力以外に吾等の生活を支持するものはない、吾等は如何なる壓迫にも耐へて進め、總ての力は闘争だ、一切の力は團結である。

15、萬歳三唱 散會

六、添付書類

- 1、昭和九年度運動方針書
- 2、日本石炭坑夫組合の現勢